

中学地理プリント (過去問類似)

日本の資源と産業

名前

得点

/8

問1 ある地域において、観光振興に向けた基礎資料を得るために、訪問者の居住地や交通手段、宿泊状況などを把握する実態調査を行うことになりました。この調査の対象として最も適切なものはどれですか。 (2017年 香川公立入試 類似)

1. 駅の改札を利用している通勤者や通学者
2. 観光地にある商店や施設で働く従業員
3. その地域を訪れている観光施設の利用者
4. 地域内の宿泊施設に滞在している宿泊客のみ

問2 日本の輸出において、航空輸送を利用する主な品目として適切なものはどれですか。航空輸送貨物全体の約18%を占める代表的な品目と、それに次いで割合の高い品目の組み合わせを選びなさい。 (2017年 富山県公立入試 類似)

1. 半導体などの電子部品と、科学光学機器
2. 自動車と、鉄鋼
3. 液化天然ガス (LNG) と、石炭
4. 木材と、パルプ

問3 都道府県別の発電量を示した資料において、千葉県が8万3932百万kWhという突出した数値を示している発電方式があります。この発電方式の施設が、多くの場合、海岸沿いの臨海部に立地している理由として最も適切なものはどれか、次から選びなさい。 (2023年 熊本県公立入試 類似)

1. 海外から輸入する石油や天然ガスなどの燃料を、大型船で直接運び込むのに便利であるため
2. 山間部から流れてくる急峻な河川の水の落差を利用して、タービンを効率よく回すため
3. 騒音や振動による周辺住民への影響を抑えるため、人口の少ない広大な埋め立て地が必要だから
4. 内陸部よりも日照時間が長く、海面からの反射光も利用して発電効率を高めることができるから

問4 中国地方の岡山県倉敷市や山口県周南市などの臨海部に位置する工業地帯・地域において、製造品出荷額の内訳で大きな割合を占める工業製品の分類として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)

1. 石油・石炭製品
2. 輸送用機械
3. 繊維
4. 食料品

問5 日本の鉄鉱石輸入において、2015年時点で最も輸入額が多い国と、2番目に多い国の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2022年 青森県公立入試 類似)

1. 1位：オーストラリア、2位：ブラジル
2. 1位：ブラジル、2位：オーストラリア
3. 1位：オーストラリア、2位：インド
4. 1位：インド、2位：ブラジル

問6 1980年代、日本からアメリカ合衆国への自動車輸出が急増したことで発生した貿易摩擦を解消するため、日本の自動車メーカーが取った主な対策として正しいものはどれですか。 (2022年 佐賀公立入試 類似)

1. アメリカからの自動車輸入を促進するため、日本国内のすべての自動車工場を閉鎖した。
2. アメリカ国内に工場を建設して直接製品を製造する現地生産を拡大し、日本からの輸出を抑制した。
3. アメリカ政府による関税引き上げに対抗するため、輸出価格を大幅に下げた販売台数をさらに増やした。
4. 自動車の生産をすべて賃金の安い東南アジアに集約し、アメリカへの輸出を完全に停止した。

問7 高度経済成長期以降の日本において、食生活の多様化や欧米化が進んだ背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2026年 山梨公立入試 類似)

1. 生活水準の向上や都市化の進展により、調理に手間のかからないパンや、肉・乳製品を用いた副菜が増えたことで、米の消費量は減少した。
2. 政府が国民の肥満を防ぐために米の消費を推奨した結果、高度経済成長期には米の消費量が過去最大となり、肉類の消費は停滞した。
3. 海外からの安価な農産物の輸入が完全に禁止されていたため、国内で生産しやすい野菜や果物の消費量だけが特異的に増加した。
4. 都市部への人口集中により自炊が困難になったため、米や野菜の消費が極端に減り、代わりに魚介類の消費量が肉類を大きく上回るようになった。

問8 2013年から2019年にかけてのアジア、北米、欧州などにおける日本食レストランの店舗数が、地域によっては数倍から数十倍にまで急増しているという統計があります。このような海外での日本食ブームを背景とした、日本の農林水産業の動向を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2022年 滋賀公立入試 類似)

1. 人口減少によって国内市場が縮小しているため、需要が増加している海外への輸出拡大を推進している。
2. 国内の食料自給率を向上させるため、海外市場への関心を下げ、国内での消費拡大に専念している。
3. 農産物の国際競争力を高めるために、地理的表示などのブランド化を避けて価格競争を優先している。
4. 海外での日本食需要に応えるため、海外産の原料を大量に輸入して日本国内で加工する取り組みを強化している。

答え合わせ・解説

| | | |
|----|---|---|
| 問1 | 答え 3 その地域を訪れている観光施設の利用者 | 地域の観光実態を正確に把握するためには、実際に観光を目的として訪れている「観光施設の利用者」を調査対象にするのが最も適切です。駅の乗降客には観光以外の目的を持つ人々が含まれ、宿泊客のみを対象とした場合は日帰り客の動向を把握できないため、観光振興のためのデータとしては不十分になります。施設利用者に直接アンケートを行うことで、訪問頻度や周遊場所といった具体的な動態を収集できます。 |
| 問2 | 答え 1 半導体などの電子部品と、科学光学機器 | 航空輸送は、小型・軽量でありながら非常に高価な製品の輸送に強みを持っています。具体的には、現代の産業に不可欠な半導体などの電子部品や、高度な技術を要する科学光学機器（カメラや医療機器など）が中心です。これらの製品は、市場の需要変化に合わせて迅速に輸送する必要があるため、高速な航空輸送が利用されています。一方で、自動車や資源などは、重量が重く大量輸送が前提となるため、主に船舶による海上輸送が担っています。 |
| 問3 | 答え 1 海外から輸入する石油や天然ガスなどの燃料を、大型船で直接運び込むのに便利であるため | 日本は火力発電の燃料となる石油や液化天然ガス（LNG）、石炭などの資源のほとんどを海外からの輸入に頼っています。タンカーなどの大型船が接岸して直接燃料を陸揚げできる臨海部は、輸送コストを抑えることができるため、大規模な火力発電所の建設に非常に適しています。 |
| 問4 | 答え 1 石油・石炭製品 | 岡山県の倉敷市水島地区や山口県の周南市などは、広大な土地と港湾機能を活かした石油化学コンビナートが形成されている代表的な地域です。そのため、これらの地域の製造品出荷額の内訳を統計で見ると、原油を精製・加工して作られる石油・石炭製品の割合が、全国平均と比較して顕著に高くなるという特色があります。 |
| 問5 | 答え 1 1位：オーストラリア、2位：ブラジル | 鉄鉱石の輸入先は、1位がオーストラリアで約55%、2位がブラジルで約30%となっており、この2か国だけで全体の8割以上を占めています。オーストラリアは資源が豊富で安定した供給が可能であるほか、日本との距離が比較的近く輸送コスト面でも有利なため、最大の輸入相手国となっています。 |
| 問6 | 答え 2 アメリカ国内に工場を建設して直接製品を製造する現地生産を拡大し、日本からの輸出を抑制した。 | 1980年代、日本の自動車輸出の急増はアメリカの国内産業に打撃を与え、深刻な貿易摩擦を引き起こしました。これを解決するため、日本のメーカーはアメリカに直接投資して工場を稼働させる「現地生産」を推進しました。これにより、現地での雇用創出を図りつつ、日本からの完成車輸出を減らす構造へと変化しました。なお、国内生産がすべて停止したわけではなく、高付加価値製品などは引き続き国内でも生産されています。 |
| 問7 | 答え 1 生活水準の向上や都市化の進展により、調理に手間のかからないパンや、肉・乳製品を用いた副菜が増えたことで、米の消費量は減少した。 | 高度経済成長による都市化や生活リズムの変化、さらには冷蔵庫などの家電製品の普及は、食文化に大きな影響を与えました。所得の増加に伴って、それまで贅沢品であった肉や卵が日常的に食べられるようになり、食卓の内容が豊かになった一方で、主食としての米の地位は低下し、代わりとしてパンなどの小麦製品の利用も広がりました。これは食生活がより多様な食材に依存するようになったことを示しています。 |
| 問8 | 答え 1 人口減少によって国内市場が縮小しているため、需要が増加している海外への輸出拡大を推進している。 | 世界各地で日本食レストランが急増している状況は、日本の農林水産物にとって大きな輸出のチャンスを示しています。日本では少子高齢化により将来的に国内での消費（国内市場）が縮小していくことが避けられないため、高品質な日本の農産物を「地理的表示」などの制度を用いてブランド化し、付加価値を付けて海外へ売り出す戦略が重要視されています。 |